

## 株主メモ

## Shareholders' Information

決算期 毎年3月31日  
定時株主総会 毎年6月  
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
〒541-8502  
同事務取扱場所 (お問い合わせ先) 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話 0120-094-777 (通話料無料)  
同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店  
野村證券株式会社 全国本支店  
※株式関係のお手続用紙のご請求は、  
次の三菱UFJ信託銀行の電話および  
インターネットでも24時間承って  
おります。  
電話 (通話料無料)  
0120-244-479 (本店証券代行部)  
0120-684-479 (大阪証券代行部)  
インターネットホームページ  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>  
公 告 方 法 電子公告  
<http://www.faith.co.jp/ir/koukoku/>  
ただし、電子公告による公告をすることができ  
ない事故その他のやむを得ない事由が生じた場  
合には、日本経済新聞に掲載して行います。

## Faith IR Mail

### 配信サービス始めました

当社は、IR関連の最新情報をEメールでお届けするサービス(無料配信)を今年10月より開始いたしました。プレスリリースなどを月に2~3件程ご案内いたします。ご希望の方は、下記アドレスからお申し込みください。



<http://www.faith.co.jp/ir/mail.html>

本報告書に記載している会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

### 免責条項

本報告書に記載されている将来に関する予想については、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。実際の業績は、様々な要因の変化により、異なる場合があることをご承知おきください。

## 株式会社フェイス

〒604-8171  
京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町566-1井門明治安田生命ビル  
<http://www.faith.co.jp/>

お問い合わせ先  
TEL.075-213-3933 FAX.075-213-3833  
E-mail [ir@faith.co.jp](mailto:ir@faith.co.jp)



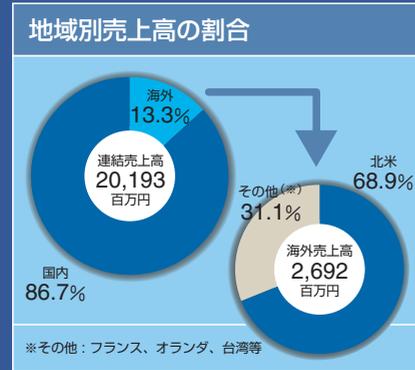
株式会社フェイス 第15期(中間)営業のご報告  
Faith, Inc. Semiannual Report  
(2006.4.1~2006.9.30)



# 財務ハイライト (連結)

■ 中間期 ■ 通期 ※単位未満切り捨て (ただし円グラフ内比率は四捨五入)

# Financial Highlights



注1) 当中間期は純資産合計、過年度は資本合計に基づきそれぞれ表示及び算出しております。  
注2) 2004年8月20日付けで、1株を2株に株式分割しております。2005年12月20日付けで、1株を5株に株式分割しております。

注3) 潜在株式調整前

# To Our Shareholders

# 株主の皆様へ



代表取締役社長 平澤 創

券評価損等の発生も加わり△653百万円(前年同期889百万円)となりました。

## 事業部門別の業績

### ●コンテンツ配信事業 サービス事業

国内においては、買収や有力企業との提携などを通じて、事業基盤の拡大、強化につとめました。平成18年5月末に携帯コンテンツ配信事業を行うギガネットワークスカンパニーの営業権を取得しました。同サービスの有料会員約300万人を加えることで、当社グループのコンテンツ配信サービスのユーザーリーチは国内最大級の1,000万人規模に拡大しました。8月には、ギガネットワーク株式会社が吉本興業株式会社を引受先とする第三者割当増資を実施しました。この資本提携の強化を機に、当社グループは吉本興業グループとの事業提携の一層の拡大を図っていきます。また、株式会社タイトー、株式会社スクウェア・エニックスとの提携、共同出資により、音楽・映像ソフト

## 営業の概況

当中間連結会計期間における国内の情報通信業界は、ブロードバンド化や第三代移動通信方式への移行などが進む中、着信メロディ配信サービスは市場の成熟化による需要減、競争激化にともない縮小傾向が続く一方、利用しやすい音楽の配信サイトやエンタテインメント性の高いオンラインゲーム、また携帯端末を用いた利便性の高い情報サービスなどが、引き続き市場の拡大を牽引しました。

このような国内市場の動きに先んじて、買収や有力企業との提携などを通じて、当社グループは、「デジタルコンテンツの新しい流通のしくみ創り」に積極的に取り組んできました。

海外においては、米Qualcomm社が推進するCDMA通信方式の世界展開に合わせて、当社グループの音源技術の需要が順調に推移しました。同時に、音楽を中心とするコンテンツサービスを、世界的なレコードレーベルなどととも世界で展開し、順調に事業を拡大しました。

さらに、米国で携帯電話サービス事業を手掛ける米Faith Communications社が、高所得者層向けの携帯電話サービスを開始しました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高は国内着信メロディ配信サービスが減収となったものの、電子決済事業の引き続き高い成長、国内サービス事業における買収、提携などによる事業拡大などから、前年同期比52.4%増の20,193百万円となりました。利益面では、国内着信メロディ配信サービスの減収、新マーケット創造のための先行投資、MVNO事業における事業開始前の費用先行投入などから、営業利益は前年同期比66.8%減の644百万円、経常利益は前年同期比72.2%減の563百万円となりました。中間純利益は、経常利益の減少に投資有価証券

の製作とデジタル配信事業を行う株式会社ブレイブを設立しました。さらに、アミューズ・グループ等との共同出資により、映画作品をはじめ多岐にわたる映像作品を製作するとともに、映像コンテンツを配給・デジタル配信する株式会社デスペラードを設立しました。加えて、インターネットを利用したバイラル(クチコミ)マーケティング技術を開発提供する株式会社クロスワープへの出資比率を高めるとともに業務提携に合意し、オンラインゲーム市場において成功報酬型広告事業へ進出しました。

海外については、米国、南米、中国、欧州においてコンテンツ配信サービスの積極的に展開し、着実に事業を拡大しました。

この結果、サービス事業の売上高は、市場の成熟化にともない需要減、競争激化から国内着信メロディ配信サービスが減収となったものの、海外における順調な伸びに加え、ギガネットワークスカンパニーの買収などによる事業拡大から、前年同期比40.7%増の7,563百万円となりました。

### ライセンス事業

国内においては、第三代移動通信方式への移行が進む中で、すでに複数の半導体メーカーを通じて国内のほとんどの携帯電話端末に採用されている当社グループの音源技術の需要が順調に推移しました。

海外においては、米Qualcomm社が推進するCDMA通信方式の世界展開に合わせて、特に米国、中国、インド、南米を中心として、当社グループの音源技術の需要が順調に推移しました。

またパソコン向けDVDソフトウェアで世界最大手の米国InterVideo, Inc.と日本および欧州においてライセンスおよび関連するソリューション提供を協業するため、音楽、映像配信技術で提携しました。

この結果ライセンス事業の売上高は前年同期比5.8%減の939百万円となりました。

## 株主の皆様へ

以上の結果、コンテンツ配信事業の売上高は前年同期比33.4%増の8,502百万円となりました。営業利益は、国内着信メロディ配信サービスの減収および国内事業基盤の充実強化や新マーケット創造のための先行投資負担を事業拡大では吸収しきれず、前年同期比32.4%減の1,305百万円となりました。

### ●電子決済事業

平成18年3月末には、国内のプロードバンドネットワーク契約件数が2,300万件を超え（総務省・情報通信統計データベースより）、オンラインゲーム、音楽配信、映像配信などの需要が、引き続き拡大しました。このような中で、ネットワーク上で「安全」かつ「便利」に使用することが可能な「WebMoney」の決済件数は大幅に伸びました。

さらに、日本、米国など5カ国で特許を取得している「電子マネー」の技術・ノウハウを活用し、他社ブランドでの電子マネー発行の支援などインターネット上で様々なサービスを提供している企業との積極的な協業を展開していきます。

以上の結果、電子決済事業の売上高は前年同期比44.3%増の9,890百万円、営業利益は210百万円（前年同期は△5百万円）となりました。

### ●MVNO事業

子会社の米Faith Communications社が、平成18年5月より高所得者層向けに国内定額制通話サービス、トラベルサービスや質の高いコンシェルジュ・サービスなどを提供する携帯電話サービス「Voce（ヴォーチェ）」をロサンゼルス地区限定で試験的に開始しました。

本格事業展開前の費用の先行投入により、MVNO事業の売上高は1百万円、営業利益は△825百万円となりました。

### ●その他の事業

その他の事業については、ポイントカードシステム事業収入や賃貸用不動産の賃貸収入などにより、売上高は前年同期比8,247.3%増の1,799百万円、営業利益は△46百万円（前年同期は14百万円）となりました。

## □ 地域別の業績

### ●日本

日本では、①ギガネットワークスカンパニーの営業権の取得、②ギガネットワークス株式会社による吉本興業株式会社を引受先とする第三者割当増資の実施③株式会社タイトー、株式会社スクウェア・エニックスとの提携、共同出資による株式会社ブレイブの設立、④アミューズ・グループ等との共同出資による株式会社デスベラードの設立、⑤株式会社クロスワープとの業務提携によるオンラインゲーム市場における成功報酬型広告事業への進出など、買収や有力企業との提携などを通じて事業基盤の拡大、強化につとめました。また、第三世代移動通信方式への移行が進む中で、すでに複数の半導体メーカーを通じて国内のほとんどの携帯電話端末に採用されている当社グループの音源技術の需要が堅調に推移しました。

さらにブロードバンド化が進む中で、オンラインゲーム、音楽配信、映像配信などの需要が、引き続き拡大しました。これに伴い、ネットワーク上での「安全」かつ「便利」に使用することが可能な

「WebMoney」の決済件数も大幅に伸びました。

以上の結果、日本の売上高は国内着信メロディ配信サービスが減収となったものの、ギガネットワークスカンパニーの買収などの事業拡大から、前年同期比59.5%増の18,200百万円となりました。営業利益は着信メロディ配信サービスの減収、事業基盤の充実強化や新マーケット創造のための先行投資負担を事業拡大では吸収しきれず、前年同期比13.6%減の1,717百万円となりました。

### ●米州

米州市場では、米Moderati社が展開する着信メロディ配信サービス「Modtones」をはじめ、着うた配信サービス「Modtones DJ」なども順調に推移しました。また米Faith Communications社は平成18年5月より高所得者層向け携帯電話サービス「Voce（ヴォーチェ）」を試験的に開始しました。

一方南米では、Curupira社が提供する着信メロディ配信サービスが契約先の見直しや他社キャンペーンの一時的な影響により減収となりました。

この結果、米州の売上高は前年同期比4.3%減の1,474百万円、営業利益はMVNO事業の本格事業展開前の費用の先行投入により△1,009百万円（前年同期126百万円）となりました。

### ●欧州

欧州市場では、Warner Music International社やUniversal Mobile International社などの音楽レーベルと提携による音楽モバイルコンテンツの制作および配信が順調に推移し、仏Digiplug社が営業黒字化を達成しました。

この結果、欧州の売上高は前年同期比72.6%増の518百万円、営業利益は前年同期から109百万円改善し△63百万円（前年同期△173百万円）となりました。

## □ 通期の見通し

当社グループは、市場の成熟化による需要減、競争激化にともない国内着信メロディ配信サービスの減収傾向が続く中、引き続き「コンテンツの新しい流通のしくみ創り」に積極的に取り組んでいきます。

音楽配信、映像配信、オンラインゲームなどの、今後、大きな成長が見込まれる市場の中で、新たな需要を開拓することで収益機会を拡大し、また、ネットワーク上の決済手段として高いシェアを占めている電子マネーの発行も積極的に推進していきます。

一方、海外においては、引き続き、海外子会社、携帯キャリア、端末メーカー、コンテンツ権利保有者などとの連携によって、積極的に需要を開拓していきます。

以上の結果、通期の当社グループの売上高は前年同期比44.2%増の43,325百万円を予想しています。一方利益面では、国内着信メロディ配信サービスの減収、MVNO事業の本格事業展開前の費用の先行投入を事業拡大では吸収しきれず、経常利益は前年同期比86.9%減の453百万円、当期純利益は投資有価証券評価損等もあり△1,083百万円（前年同期1,438百万円）を予想しています。

代表取締役社長 **平澤 創**

## 吉本興業グループとの戦略的提携を強化



事業の共同企画を行うなど、グループ企業としてのシナジーを活かしていきます。

8月31日、当社グループのギガネットワークス株式会社は、吉本興業株式会社を引受先とする第三者割当増資を実施しました。この増資により、ギガネットワークスの発行済株式総数は32,500株、株主構成は当社95.4%、吉本興業4.6%となりました。今回の資本提携の強化を機に、当社グループは吉本興業グループとの事業提携の一層の拡大を図っていきます。

今後は、ギガネットワークスによる携帯電話向けサービス「吉本笑Room」の充実に加え、ギガネットワークスが有する携帯電話サービス有料会員約300万人を最大限に活かし、吉本興業が展開するリアルイベント、放送との連動サービスなどを推進します。また、当社グループの権利認証技術を利用し、携帯電話、パソコン、テレビなどへの一括配信サービスといった新規

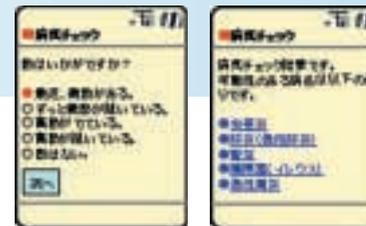
## 携帯電話で医療情報を提供する「ポケットQQ」



当社グループの(株)メディカルコミュニケーションは今年秋より、携帯電話で医療情報を提供するサービス「ポケットQQ（キューキュー）」を開始しました。法人契約の会員制で、症状に応じて近くの病院を探したり、健康診断結果を管理することなどができます。企業の社員健康の強化や福利厚生、さらにはフィットネスクラブの会員向け特典、旅先で急病人に対応する必要がある旅行添乗員など、法人需要を見込んでいます。

「ポケットQQ」は、全国の病院約20万カ所、薬局約10万カ所を独自にデータ化しており、携帯電話の画面上で「急な腹痛」「食中毒」「歯痛」などの症状を選べると、最寄りの病院の名前、診療科目や地図が表示され、病気やケガの処置方法や最寄りの薬局も検索できます。

また、病院で処方された薬と同じ効能で安価な後発（ジェネリック）医薬品を検索し、薬価を比較することも可能です。来年3月までには、医師らによる電話での医療・健康相談をスタートさせる予定です。



## オンラインゲームにおいて成功報酬型(アフィリエイト) 広告市場を創造

当社は7月27日、インターネットを利用したバイラル(クチコミ)マーケティング技術を開発提供する株式会社クロスワープへの出資比率を4.1%から9.4%に高めるとともに、オンラインゲームに関する成功報酬型広告事業における業務提携に合意しました。

クロスワープが開発したバイラルマーケティングエンジン「CROSSMARC®」は、クチコミのネットワーク(視聴ネットワーク)を形成する仕組みです。これを利用した新たなソリューションを共同開発することで、ゲーム映像コンテンツを配信、視聴を促すとともに、視聴者自身がブログやウェブサイトを通して、他の人々にそのコンテンツを紹介することを可能にします。

8月3日には、この新しい手法によるマーケティング・プロモーションとして、公式ゲーム映像が自分のブログに貼れる配信リンクサービスを提供するゲームのコンビニ「ShowGAME」(<http://www.showgame.jp/>)を一般公開しました。



## 電子マネーの技術・ノウハウを積極活用



当社グループの株式会社ウェブマネーは、日本・シンガポール・韓国・台湾・米国の5ヵ国で特許を取得している「電子マネー」の技術・ノウハウを活用し、コンテンツ配信企業などとの積極的な協業を展開していきます。

ウェブマネーが1998年より運用を開始した“WebMoney”は、インターネット専用電子マネーとして圧倒的な認知度をもち、多数のインターネットユーザーに利用されています。自社で開発、蓄積してきた独自の「電子マネー」発行および決済システムの技術とその特許を重要な資源として、各企業が個別ブランドでの電子マネーを発行するための必要な技術・ノウハウを提供します。

これにより、オンラインゲームや音楽配信サービスを展開している企業向けの電子マネー発行支援や、インターネット通販サイトでの商品券やクーポン券としての機能提供を行っていきます。



株式会社デスペラード 坂上社長 + 石田副社長

## 映像コンテンツの流通を変える 新しいムーブメント創りを目指して



今年8月、映像関連子会社として(株)デスペラードを設立しました。フェイス・グループが目指す「デジタルコンテンツの新しい流通のしくみ創り」の中核を担う存在として期待されています。映像作品に関する多くのキャリアを持つ坂上社長と石田副社長に話を伺いました。

**Q デスペラード設立の経緯と、現在の事業内容について。**  
石田 昨年、「新たに映像の会社を作りたい」と考えていたフェイスの平澤社長との出会いがあり、話を重ねる中で、私が抱いていた映像コンテンツ創りへの想いが一致したことから、

当社の立ち上げに至りました。前職であるアミューズソフトエンタテインメントの宮下社長にも相談し、映像製作だけで収益を上げるのではなく、配給宣伝などを含んだ広がりある事業を展開するために、実績・キャリアの豊富な坂上を紹介してもらい、一緒にやっということになりました。

現在の事業内容としては、坂上が統括する配給・宣伝部門と、私を中心とする映像製作部門を核に、邦画の製作、洋画の買付(権利取得)、劇場配給に加えて、TVドラマなどの製作もすすめており、将来的には、これらのコンテンツの配信ビジネスにも展開していく予定です。ただし、当面は配給・宣伝業務の受託に特に注力し、手数料収入を利益確保の基盤としていく考えです。配給・宣伝業務は、デスペラードの名前が認知される機会を増し、さらなるビジネス展開への波及効果も見込めます。

**Q フェイス・グループの中で、デスペラードが担う役割は?**  
坂上 グループ内で、ギガネットワークス、ブレイブと当社の3社が相互に補完しながら、映像コンテンツビジネスを拡大していくことを目指しています。コンテンツの提供や共同製



株式会社デスペラード 代表取締役社長  
坂上 直行  
1950年生。1973年日本ヘラルド映画に入社し、宣伝プロデューサーとして、多くの邦画・洋画を担当。その後、映画製作プロデューサーも手掛け、常務取締役営業本部長などを歴任。2004年日本映画製作・配給室長。2005年角川ヘラルド映画・取締役映像事業本部長。本年同社を退社、8月1日(株)デスペラード設立、現在に至る。近年の代表的製作作品に「ホワイトアウト」「あすみ」「亡国のイージス」など。

作以外にも、例えばギガネットワークスが有する約300万人の会員基盤を当社の配給・宣伝に活かすといったシナジーも考えています。当社の方には、やはり映像製作に関する専門性がありますので、コンテンツ制作における企画・提案の部分での役割が、特に期待されているところです。

石田 当社の設立に際して平澤社長は、「映像コンテンツの世界に今までにない流通スキームを構築し、新しいムーブメントを生み出していきたい」というビジョンを述べています。これをグループ全体で構築していく中で、当社の強みをもって貢献すると同時に、そこで流通する戦略商品としての映像コンテンツを当社が製作していく、ということを考えています。

**Q デスペラードが目指す将来のビジョンについて。**  
石田 当社の財産は、優秀な人材とノウハウに尽きます。社員と外部のクリエイターが果たす貢献に対して、それぞれに適正なインセンティブを与え、コンテンツのクオリティを向上させるとともに、優れたクリエイターを育成・確保していく環境を築き上げたいと考えています。

坂上 映画に限定されずに広がっていく様々なビジネスチャンスに、優秀な映像クリエイターを参加させる場を、当社は創っていかないと考えています。フェイス・グループの総力を発揮できる映像コンテンツ創りを通じて、大きなヒットを目指してまいります。

### デスペラード映像作品リスト

- 宣伝 「めぐみ〜引き裂かれた家族の30年」(11月25日公開)
- 製作 出資 「ヒートアイランド」、「鳳凰」、「Little DJ ~小さな恋の物語」(すべて2007年公開予定)
- 買付 「デート・ウィズ・ドリュウ」(12月16日公開)



株式会社デスペラード 代表取締役副社長  
石田 雄治  
1961年生。大学卒業後CBSソニーグループに入社。ギャガ・コミュニケーションズ、ポニーキャニオンを経て、洋画の買付・配給・ビデオ制作、音楽の宣伝・制作、TVドラマ制作を経験。2002年アミューズにて映像制作部立上げに参加。2004年アミューズソフトエンタテインメントに移籍。本年同社を退社、8月1日(株)デスペラード設立、現在に至る。近年の代表的プロデュース作品に「下妻物語」「嫌われ松子の一生」など。

□ 中間連結貸借対照表

科目	当中間期	前中間期
	2006年9月30日現在	2005年9月30日現在
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>	17,674	13,359
現金及び預金	8,849	7,825
受取手形及び売掛金	6,375	3,396
有価証券	372	1,010
たな卸資産	52	3
繰延税金資産	759	795
その他	1,374	399
貸倒引当金	△109	△70
<b>固定資産</b>	23,609	10,247
<b>有形固定資産</b>	1,351	1,130
<b>無形固定資産</b>	14,688	4,031
連結調整勘定	—	3,511
のれん	13,822	—
その他	865	519
<b>投資その他の資産</b>	7,569	5,085
投資有価証券	5,020	2,955
敷金	1,272	1,103
その他	1,395	1,227
貸倒引当金	△119	△201
<b>繰延資産</b>		
株式交付費	11	—
<b>資産合計</b>	<b>41,295</b>	<b>23,606</b>

主要な連結子会社の名称

- Moderati Inc.
- Faith Communications, Inc.
- Digiplug S.A.S.
- Faith Technologies S.A.S.
- Invest Virtua S.A.
- ギガネットワークス(株)
- (株)デスペラード
- (株)ブレイブ
- (株)ウェブマネー
- グッディポイント(株)

科目	当中間期	前中間期
	2006年9月30日現在	2005年9月30日現在
<b>(負債の部)</b>		
<b>流動負債</b>	15,512	7,324
買掛金	4,319	2,686
短期借入金	6,178	—
未払法人税等	402	926
カード利用原価引当金	2,096	2,304
ポイント引当金	596	—
賞与引当金	95	73
その他	1,822	1,332
<b>固定負債</b>	8,292	205
長期借入金	7,011	—
繰延税金負債	1,069	—
退職給付引当金	29	23
役員退職慰労引当金	135	109
その他	46	73
<b>負債合計</b>	<b>23,804</b>	<b>7,530</b>
<b>(少数株主持分)</b>		
少数株主持分	—	220
<b>(資本の部)</b>		
<b>資本金</b>	—	3,218
<b>資本剰余金</b>	—	3,708
<b>利益剰余金</b>	—	8,919
その他有価証券評価差額金	—	297
為替換算調整勘定	—	66
<b>自己株式</b>	—	△354
<b>資本合計</b>	—	15,855
負債、少数株主持分及び資本合計	—	23,606
<b>(純資産の部)</b>		
<b>株主資本</b>	15,138	—
資本金	3,218	—
資本剰余金	3,708	—
利益剰余金	8,566	—
自己株式	△354	—
評価・換算差額等	1,917	—
その他有価証券評価差額金	1,712	—
為替換算調整勘定	205	—
<b>新株予約権</b>	—	—
新株引受権	0	—
少数株主持分	434	—
<b>純資産合計</b>	<b>17,491</b>	—
<b>負債純資産合計</b>	<b>41,295</b>	—

□ 中間連結損益計算書

科目	当中間期	前中間期
	2006年4月1日から2006年9月30日まで	2005年4月1日から2005年9月30日まで
<b>売上高</b>	20,193	13,249
<b>売上原価</b>	14,114	8,741
売上総利益	6,079	4,507
<b>販売費及び一般管理費</b>	5,435	2,567
営業利益	644	1,940
<b>営業外収益</b>	70	125
<b>営業外費用</b>	151	38
経常利益	563	2,027
<b>特別利益</b>	182	109
<b>特別損失</b>	1,032	152
税金等調整前中間純利益又は損失(△)	△286	1,984
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	468	1,123
<b>少数株主損失</b>	102	29
<b>中間純利益又は損失(△)</b>	<b>△653</b>	<b>889</b>

□ 中間連結株主資本等変動計算書

	株主資本					評価・換算差額等			新株予約権 新株引受権	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算 差額等合計			
平成18年3月31日残高	3,218	3,708	9,408	△354	15,980	3,401	243	3,645	0	342	19,968
中間連結会計期間中の変動額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	△59	—	△59	—	—	—	—	—	△59
役員賞与	—	—	△39	—	△39	—	—	—	—	—	△39
中間純損失	—	—	△653	—	△653	—	—	—	—	—	△653
在外子会社の会計処理変更に伴う減少額	—	—	△91	—	△91	—	—	—	—	—	△91
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△1,688	△38	△1,727	—	92	△1,635
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△842	—	△842	△1,688	△38	△1,727	—	92	△2,477
平成18年9月30日残高	3,218	3,708	8,566	△354	15,138	1,712	205	1,917	0	434	17,491

□ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当中間期	前中間期
	2006年4月1日から2006年9月30日まで	2005年4月1日から2005年9月30日まで
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	737	2,546
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	△14,349	△920
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	13,374	△263
現金及び現金同等物に係る換算差額	△33	76
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△270	1,438
現金及び現金同等物の期首残高	7,679	6,770
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	193	—
現金及び現金同等物の中間期末残高	7,601	8,209

キャッシュ・フローについて

当中間連結会計期間における現金および現金同等物(以下「資金」という)は、ギガネットワークスの営業譲受資金12,036百万円に充当するため、13,000百万円の借入を行ったこと、定期預金の預入による支出が1,400百万円、法人税等の支払が909百万円であったこと等から、前中間連結会計期間末に比べ607百万円減少(前年同期比7.4%減)し、当中間連結会計期間末は7,601百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純損失が286百万円であったこと、法人税等の支払額が909百万円ありましたが、のれん償却額が1,533百万円あったこと、仕入債務の増加により資金が846百万円増加したこと等により、737百万円(同71.0%減)の収入超過となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、ギガネットワークスの営業譲受のための支出が12,036百万円、定期預金の預入による支出が1,400百万円であったこと等により、14,349百万円(同1,459.1%増)の支出超過となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純増加額が3,057百万円、長期借入れによる収入が10,020百万円であったこと等により、13,374百万円(前年同期は263百万円の支出超過)の収入超過となりました。

□ 中間貸借対照表

科目	当中間期	前中間期
	2006年9月30日現在	2005年9月30日現在
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>	5,279	5,265
現金及び預金	2,589	2,119
受取手形	4	4
売掛金	1,192	1,388
有価証券	222	880
たな卸資産	0	1
その他	1,284	941
貸倒引当金	△14	△70
<b>固定資産</b>	19,303	13,749
<b>有形固定資産</b>	992	882
<b>無形固定資産</b>	239	269
<b>投資その他の資産</b>	18,071	12,598
投資有価証券	3,860	1,678
関係会社株式	10,645	7,662
その他の関係会社有価証券	1,348	—
繰延税金資産	36	1,068
敷金	1,133	1,070
長期預け金	991	950
その他	112	241
貸倒引当金	△56	△74
<b>資産合計</b>	<b>24,583</b>	<b>19,015</b>

□ 中間株主資本等変動計算書

	株主資本								評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		評価・換算差額等合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計					
					別途積立金	繰越利益剰余金						
平成18年3月31日残高	3,218	3,708	3,708	1	8,500	3,087	11,588	△354	18,160	3,399	3,399	21,560
中間会計期間中の変動額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
別途積立金の積立	—	—	—	—	1,000	△1,000	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△59	△59	—	△59	—	—	△59
役員賞与	—	—	—	—	—	△39	△39	—	△39	—	—	△39
中間純利益	—	—	—	—	—	114	114	—	114	—	—	114
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△1,687	△1,687	△1,687
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	1,000	△984	15	—	15	△1,687	△1,687	△1,671
平成18年9月30日残高	3,218	3,708	3,708	1	9,500	2,103	11,604	△354	18,176	1,712	1,712	19,889

□ 中間損益計算書

科目	当中間期	前中間期
	2006年9月30日現在	2005年9月30日現在
<b>売上高</b>	4,014	4,558
<b>売上原価</b>	1,874	1,639
<b>売上総利益</b>	2,139	2,918
<b>販売費及び一般管理費</b>	991	925
<b>営業利益</b>	1,147	1,993
<b>営業外収益</b>	38	118
<b>営業外費用</b>	67	1
<b>経常利益</b>	1,119	2,109
<b>特別利益</b>	32	82
<b>特別損失</b>	888	24
<b>税引前中間純利益</b>	262	2,168
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	148	934
<b>中間純利益</b>	114	1,233
<b>前期繰越利益</b>	—	487
<b>中間未処分利益</b>	—	1,721

会社概要

2006年9月30日現在

会社名称 株式会社フェイス  
 英文表記 Faith, Inc.  
 本社所在地 〒604-8171 京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町566-1 井門明治安田生命ビル  
 資本金 32億1,800万円  
 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部  
 設立年月日 1992年10月9日  
 従業員数 98名(連結482名)  
 加入団体 社団法人 音楽電子事業協会 (AMEI)  
 社団法人 日本音響学会  
 T-Engineフォーラム  
 ETSI (The European Telecommunications Standards Institute)  
 音楽関連モバイルコンテンツ事業者協議会

株式の状況

2006年9月30日現在

発行可能株式総数 1,990,000株  
 発行済株式の総数 1,196,000株  
 株主数 20,002名

大株主の状況(上位10名)

2006年9月30日現在

株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
平澤 創	466,040株	39.14%
中西 正人	88,600	7.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	52,383	4.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	30,098	2.52
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	23,609	1.98
田中 治雄	10,462	0.87
大阪中小企業投資育成株式会社	9,800	0.82
株式会社ドコモ・ドットコム	9,000	0.75
ザ チェースマンハッタンバンク	8,500	0.71
日本証券金融株式会社	8,186	0.68

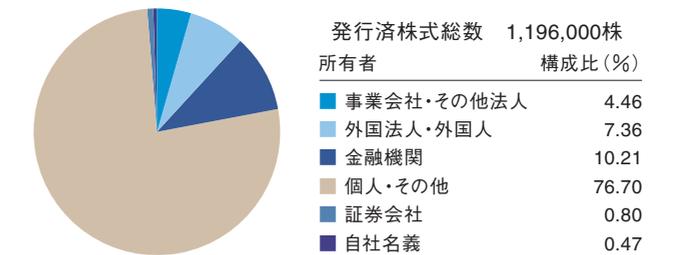
取締役および監査役

2006年9月30日現在

代表取締役社長 平澤 創  
 専務取締役 中西 正人  
 取締役 佐伯 浩二  
 取締役 踊 契三  
 常勤監査役 清水 章(公認会計士)  
 監査役 富岡 康真(テレック総合研究所主任研究員)  
 監査役 高橋 善男(財団法人京都府民総合交流事業団理事長)  
 ※監査役全員は、社外監査役であります。

所有者別株式分布

2006年9月30日現在



所有株数別株式分布

2006年9月30日現在

